

管内の24 J A の2015年度決算が出そろった。農畜産物の取扱高や粗生産高、支払高は、小麦の大豊作や乳価の上昇、肉牛価格の高値取引などで23の J A で過去最高を更新。金額の合計は3506億円となった。各 J A で決算期や算出方法が異なる額を単純計算したもののだが、十勝地区農協組合長会などが昨年末に発表した取扱高の概算値3233億円を上回り、15年の好調さを示す結果となった。

**2015年度 十勝JAの農畜産物
取扱高(生産額)**

	前年度比
帯広かわにし	203億5100万円 11.7%増
帯広大正	146億7400万円 8.4%増
中札内村	131億7500万円 7.4%増
さらべつ	121億4100万円 4.7%増
忠類	55億4000万円 7.4%増
大樹町	123億9100万円 7.2%増
ひろお	69億9800万円 11.0%増
めむろ	296億5700万円 17.4%増
十勝清水町	270億0100万円 17.9%増
新得町	168億4100万円 16.8%増
鹿追町	203億2500万円 16.0%増
木野	35億9400万円 22.4%増
おとふけ	235億6000万円 20.0%増
士幌町	421億5000万円 22.4%増
上士幌町	211億6000万円 13.7%増
さつない	37億3900万円 2.0%増
幕別町	152億6000万円 9.2%増
十勝池田町	67億3700万円 11.5%増
十勝高島	29億2800万円 10.1%増
豊頃町	127億7700万円 13.6%増
うらほろ	112億3300万円 13.3%増
本別町	126億9600万円 18.0%増
あしよる	100億2000万円 6.5%増
陸別町	56億8200万円 24.0%増
合計	3506億3000万円

各 J A は4月から6月にかけて総会や総代会を開き、15年度の決算を発表。十勝毎日新聞社のまとめによると、士幌町の421億5000万円をはじめ、23 J A でこれまでの最高額を更新した。伸び率は陸別町の24%増が最大だった。

取扱高には「商系」と言われる J A 以外の一般商社は含まれておらず、唯一過去最高ではなかった J A さつないは、一部酪農家が商系に出荷を始めたことが影響したとみられる。

取扱高や粗生産高、支払高は、 J A ごとに決算期が違ったり、交付金を含めるか含めないかなど算出方法が異なったりする。このため単純に比較はできないものの、見込額も含めて試算した昨年末の概算値に比べると、実績ベースの数字になる。

15年産の農畜産物は耕種(畑作)、畜産の両部門ともに好調だった。特に小麦は主力品種「きたほなみ」が多収、高品質となり各 J A で取扱高を大きく伸ばし、好決算の要因になった。ビートも生産量が多く糖度が高かった。酪農は乳価や牛の販売価格が上昇し、肉用牛は枝肉や素牛が高値で推移した。

過去最高の3233億円を上回る数字になったことに、同組合長会の有塚利宣会長(J A 帯広かわにし組合長)は「十勝を挙げて『ごちそう共和国』や安心安全な農畜産物作りに取り組んできた。さらに生産額が伸びたことは十勝農業の自信と喜びになる」と話した。

J A 上士幌 バイオガス3基建設 国内初の同時着工

事業費26億円 12月稼働

【上士幌】 J A 上士幌町(小椋茂敏組合長)などは、町内3カ所に集約型のバイオガス発電プラント3基を建設する。12月にも稼働させ、町内全域から家畜ふん尿を受け入れる。同 J A によると、3基の同時着工は国内で初めて。総事業費は約26億円。

同 J A の2015年度の生乳生産量が10万トンを超え酪農家の規模拡大が進む一方で、冬場の家畜ふん尿の処理が課題だった。そのため同 J A は14年に関係者会議を立ち上げ、バイオガス発電プラントの建設について本格的に調査を行ってきた。

バイオガスプラントは上士幌地区、上音更地区、北門地区にそれぞれ1基ずつ建設。同 J A と組合員、土谷特殊農機具製作所(帯広)が出資し、6日に立ち上げた

「上士幌町資源循環センター」(社長・高木聰同 J A 理事)が運営する。資金調達は補助事業は利用せず、金融機関などからの融資を予定している。

バイオガスプラントは1基当たり300キロワットの発電で、約1200頭分のふん尿の受け入れが可能。1日に約100トンの処理を見込む。発電した電力は北海道電力に売却する予定。町内全域の酪農・畜産農家が利用できるようにし、53戸の参加を想定している。家畜ふん尿は地元の運送会社に委託してプラントまで収集搬入する。3基とも4月に着工する。

将来的にはさらに2基増やす予定で、廃熱の利用や電力の地産地消についても今後検討していく。小椋組合長は「バイオガス発電プラントの建設は酪農家の規模拡大のための第1ステップで、さらなる増頭増産体制につなげたい」と話している。